

SIGMA vol.115

©KAWAKITA MEDICAL FOUNDATION. ALL RIGHTS RESERVED.

肺がんへの 低侵襲 胸腔鏡下手術

社会医療法人 河北医療財団
河北総合病院



機能温存と早期回復を 両立する現代の肺がん手術

小さな傷で負担を減らす“胸腔鏡下手術”

河北総合病院の呼吸器外科では、肺がんに対して胸腔鏡を用いた低侵襲手術を基本としています。3~4か所の小さな切開でおこなうため、痛みや術後の負担が大幅に軽減されるのが特長です。以前のような大きな開胸は不要で、患者さんの体力や呼吸機能に合わせて、肺葉切除だけでなく部分切除・区域切除などの縮小手術も選択できます。腫瘍の位置や大きさに応じて最適な術式を提案し、機能温存と治療効果を両立する“からだに優しい肺がん治療”を実現しています。



“早期発見から回復まで”的 一貫した治療体制

当院では、呼吸器外科・呼吸器内科・放射線腫瘍科が密に連携し、進行度に応じて手術・放射線・化学療法を最適に組み合わせた集学的治療を提供しています。また、入院当日からリハビリテーションが介入し、肺切除後の回復を早期にサポートする体制を整えています。検査では高性能CTにより即日撮影・診断が可能で、術中迅速診断にも対応するなど、早期発見から治療開始までスムーズに進められる点も大きな強みです。

内田修 呼吸器疾患センター長の
解説動画はこちら



【患者さんのご紹介はこちら】

河北総合病院 地域連携課 03-3339-2152（直通） 月～金 9:00～17:00／土 9:00～12:00 ※祝日休